

自立活動学習指導案

八尾市立八尾小学校

T1 小松 歩

T2 河野 ゆり

1. 日 時 令和6年11月22日 第5時限 14:00~14:45
2. 場 所 ひまわり教室1
3. 学年・組 ひまわり1 第6学年 3名 第3学年 3名
第2学年 3名 第1学年 2名
4. 題材名 「中なわで頑張ったことを伝えよう」
5. 題材について

(1)児童観

本学級(ひまわり1)は、1年生2名、2年生3名、3年生3名、6年生3名の計11名で構成されている。子どもたちは、話すことが好きで、日常生活の楽しかったことや頑張ったことなどを一緒に学ぶ友だちや教師にたくさん話すことができる。一方で、自分の経験や考えを整理して話すこと(「理由」、「はじめ・中・終わり」「聞き手を意識することなど」)には課題がある児童が多く、特に人前での発表になると緊張したり自信が持てなかつたりするため、話すこと自体に取り組む意欲が持てないことも多い。

話すことに関しては、一学期の自立活動(「ひまわりタイム」)の時間に、SSTや自己紹介などの取り組みを通して人前で話す経験をしてきた。発表には抵抗のある児童も多いが、発表の前に見本を見ること、メモを作ること、練習することなどを通して、それぞれが自分のことを話すことができた。

また、今回は伝えたいことを発表する際に原稿を書く活動を行っていくが、文章を書くことに関しては個人差が大きい。高学年を中心に自分の経験や気持ちをその理由をつけて短い文章にすることができる児童(A)、中学年を中心に支援や型があれば自分の経験や気持ちを短い文章にすることができる児童(B)、低学年を中心に教師とのやり取りの中で短い文を作っていく(質問に対して児童が口にした言葉を教師がつなぐ形で文にしていく)児童(C)など、それぞれの書く力に合わせた支援が必要である。

書くことに関しては、毎回の自立活動の際に、始めに目標を決め、終わりに振り返りを書く活動を行ってきた。振り返りの際は、記号や顔の表情を選択することで自分の達成度や今の気持ちを表せるようにし、個に応じて文章で振り返りを行えるようにしてきた。目標や気持ちを選択することで表す児童、楽しかったこと、頑張ったことを短い文章で書く児童、理由や気持ちの変化をもう少し長い文章で表現できる児童などさまざまであるが、毎回の振り返りを書く活動を通して、目標を持って活動を行うこと、振り返りを書くことは定着してきている。

このような取り組みの中で、二学期は、人との関わりを通してそれぞれが伝え合う力をもう一段高めていきたいと考えている。自分の経験や頑張りを話すこと、共感をもって聞くこと、そして相手に分かるよう伝えようとする活動を通して一人ひとりの表現する力、伝える力をつけていきたい。

(2)題材観

本題材「ひまわりタイムで頑張ったことを伝えよう」は、自立活動においてコミュニケーションに関する観点に重点を置いたものである。また、本校の国語科の研究課題である「考えの形成」とも繋がる、言語活動に重点をおいた取り組みでもある。

本題材では、一学期から取り組んでいる中なわ(8の字跳び)を授業参観で保護者に発表する。その後、中なわの紹介ビデオにそれまでの頑張りの気持ちを付け加えて作成し、学校の仲間に伝える取り組みを

行う。ここでは、自分の経験や気持ち、頑張ったことを話したり、共感をもって聞いたり、相手に分かるように工夫して伝えたりすることをねらいとしている。

伝える内容として、中なわを取り上げた理由は、グループで跳ぶ活動を通して、どうしたら多く跳べるかという目的やゲーム性があること、子どもたちが主体的に楽しく取り組むことができること、そして協力して跳べた経験から達成感を感じられる活動であることなどが挙げられる。また活動の中に友だちとの対話や自分が得意なこと、経験したことを話すなどの言語活動を取り入れることで、言語を通して自分のことを表現したり友だちのことを理解したりする力を高めることも期待できる。さらに、異学年と一緒に学習することで、高学年が中心となり、話し合いを作り上げることができる題材でもある。

本題材では、この活動をその後の「伝える」活動へと繋げていきたい。仲間とともに頑張ったことや対話を通して協力し、達成できたという経験は、それを誰かに「伝えたい」という動機につながるのではないかと考えられる。また「伝える」手段を紹介ビデオという形にし、共同で製作できることで、書くことが難しい児童にとっても取り組みやすい活動にしている。

また本題材は、異学年の交流も大切にしている。一学期の自立活動での取り組みを通して、少しずつではあるが高学年の児童が低学年の児童に伝えたり、教えたりする姿が見られるようになってきた。全学年で活動できることは、低学年の児童にとっては、どのように活動すればうまくできるのかモデルをもつことになり、高学年の児童にとってはどうすれば伝わるのか、伝え方の工夫を学ぶ機会になると考えられる。

(3) 指導観

本題材では、児童の伝え合う力の育成に重点を置き、個々の児童が自分の頑張りや気持ちを自分に合った方法で他者に伝えられるようになることを目指す。そのために、指導にあたっては、次の点に留意する。

まず、中なわを通したコミュニケーション能力の育成である。各チームの目標回数を考える作戦会議を通して、高学年中心の話し合い活動をさせていく。また、「練習中に、どのように声かけをすればよいか」（自分が言ってあげたいこと、言ってもらいたいこと）、「何をポイントにすれば、跳べるようになるか」、ポイントを意識できる言葉を考えさせながら、進めていく。

次に、中なわの練習を離れ、SST で伝え方・聞き方の学習をする。伝える内容は、「いま、どんなきもち？」を顔の表情(8パターン)の中から選び、「○○のきもち」のエピソードトークをする。「いつ・だれが・何をした、どんな気持ち」の理由をつけて話す活動である。これらの気持ちを選ぶ手助けとして、気持ちを色分けする。発表の聞き方については、「話す人の方に体を向ける」「顔を見る」「終わりまで聞く」などのポイントについても確認しながら行っていく。

さらに、伝える力を育むために、活動の振り返り(練習日記)も、これまでの積み重ねをもとに工夫していく。「ひまわりタイム」では、毎回目標を決めて(個々の学習の見通しをもち)取り組み、個々に振り返りを残してきた。今回の取り組みでも、毎回の練習後に気持ちを表す表情カードや色カードを使って、自分の気持ちを選び、その理由や具体的な出来事を個々に応じて記述できるような日記にしていく。全体の活動を振り返る際、「楽しかった」だけではなく、自分の気持ちやその理由、変化について、この日記を見ることで、より具体的な記述を引き出せるようにしていきたい。

最後に、紹介ビデオを使って自分の経験を他者に伝える活動である。本題材では、中なわを紹介するための紹介ビデオの作成に共同で取り組む。今年度より、障がい理解教育として支援学級担任が各クラスで1時間、支援学級の活動などを話している。その中で自立活動の紹介ビデオを活用したいと考えている。紹介ビデオの作成は、まず中なわを跳んでいる様子、話し合う様子を撮影している動画を見る。それだけでは十分に伝わらないので、「相手に伝えるためには何が必要か」を全体で考えられるようにする。その過程では、主に高学年が低学年に気づいたことを伝えられるような場面を設定し、個々の「考えの形

成」につなげられるようにする。それから、自分にとって書きやすい原稿のワークシートを選ぶ(教師と一緒に作成する選択もできる)。自分に合ったものを選択することで、書くこと(表現すること)への意欲、達成感を持たせられるようにしていきたい。

6. 題材(単元)の目標

「6. コミュニケーション」の領域

(3)言語の形成と活用に関すること、(4)コミュニケーションの手段の選択と活用に関することをふまえて以下の目標を設定する。

- ・友だちと話し合い、どのような紹介ビデオ作ればよいか考えることができる。
- ・自分の頑張り、できるようになったことを自分なりの手段を選択して、表現することができる。

7. 児童の実態と個別の目標

	題材における児童の実態	題材における目標
A	学:自分の経験や気持ちを理由をつけて文章に書くことができる。	この題材において、頑張ったことや気持ち、気持ちの変化などを事柄の順序を考えて伝えることができる。【6-(3)】【6-(4)】
B	学:教師の支援や型を使って、自分の経験や気持ちを文章で書くことができる。	この題材において、頑張ったことや気持ち、その理由を3文から5文程度で伝えることができる。【6-(3)】【6-(4)】
C	学:下描きをなぞって文字を書くことができる。教師とのやり取りの中で単語を選ぶことができる。	写真や絵、色カードを選び自分の頑張ったことや気持ちを伝えることができる。【6-(4)】

8. 本単元で取り組む言語活動

中なわの紹介ビデオで、がんばりをつたえよう(ワークシート・写真 等)

9. 単元の計画と評価(6時間)

	主な学習活動	評価方法
1	・作戦会議(目標回数の設定、合言葉を決める)、 ・中なわ練習 ・練習日記① 自分たちが頑張りたいことを日記に書く。	様子・発言・記述
2	・SST(気持ちに合わせたエピソードトークをする) ・イメージに合わせて、気持ちを色で分類する。	様子・発言・記述
3	・中なわ練習 跳ぶためのポイントを互いに意識できるようにする。 ・練習日記② 授業の終わりに「気持ちを表す表情カード」を選び、そのカードを選んだ理由を書き込む。	様子・発言・記述
4	・中なわ発表会 ・授業の終わりに「気持ちを表す色カード」を選ぶ。	

5 【本時】	<ul style="list-style-type: none"> ・紹介ビデオの原稿を書く。 ・動画にどんな内容を付け加えると、中なわの良さを伝えられるか考える。(頑張ったこと・気持ちの変化) ・自分で選んだワークシートで原稿を書く。 	様子・発言・記述
6	・紹介ビデオの撮影をする。	様子・発言

11. 本時の展開 (第5時/全6時間)

(1) 本時の目標

ア 全体目標

・自分の頑張りができるようになったことを自分なりの手段を選択して、紹介ビデオの原稿を作ることができる。

イ 児童の個別目標

A 頑張ったことや、気持ちの変化と、その理由を順序立てて書くことができる。【6-(3)】【6-(4)】

B 頑張ったことや気持ち、その理由を3文から5文程度で書くことができる。【6-(3)】【6-(4)】

C 写真や絵、色カードを選び自分の頑張ったことや気持ちを伝えることができる。【6-(4)】

ウ 準備・資料

「ひまわりタイム」振り返りシート・写真・紹介ビデオの原稿用紙(それぞれに合わせたワークシート)
中なわ発表会の動画

(2)本時の授業展開

学習活動・学習方法	教師の指導・支援と評価(◎評価)			
	全体	A	B	C
1. 前時までの学習をふりかえる。	・写真や振り返りシートを見てこれまでの学習を思い出させる。			
2. 本時のめあてを確認する。	学校みんなへの よりよい伝え方を考えよう			
3. 中なわ発表の動画を見て、みんなで考える。	・紹介ビデオで中なわの良さをもっと伝えるために何が重要か考えさせる。	◎ポイント(頑張ったこと・気持ちの変化)に自分で気づくことができる。	◎友達の発表を聞いて、ポイントに気づくことができる。	◎ポイントを教師と一緒に考えることができる。
4. 自分の(頑張ったこと、気持ちの変化)伝え方を選ぶ。 (ワークシート・写真 等)	・それぞれに合ったワークシートを選ばせる。	◎自分でワークシートを選ぶことができる。	◎自分でワークシートを選ぶことができる。	◎教師と一緒にワークシートを選ぶことができる。
5. 原稿を作成する。		・書きやすい型のワークシートを作成し、自力で書けるようにする。 ◎頑張ったことや気持ちの変化などを事柄の順序を考えて書くことができる。	・書くことが思いつかない場合は教師とのやり取りの中で言葉をつないでいくようにする。 ◎頑張ったことや気持ち、その理由を3文から5文程度で書くことができる。	・自力で書くことが難しい児童には、教師が設問を読み、児童が口にしたことを書く形で進める。 ◎写真や絵、色カードを選び自分の頑張ったことや気持ちを伝えることができる。
6. 本時をふりかえり、次時につなげる。				